

不登校対策支援プラン

プランの策定にあたって

更新日 4 月 1 日

県内において不登校児童生徒数が増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。

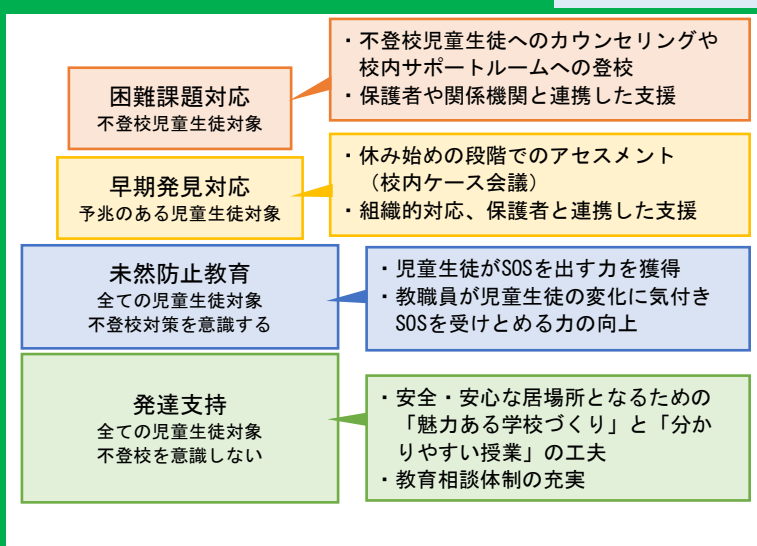
本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 誰もが安心して生活できる環境を整え、自分で選択しながら生活できる居場所（サポートルーム等）をつくる。
- 2 不登校の兆しが見られる児童に寄り添い、困り感に支援できる体制（複数児童、児童が安心できる教員の配置等）をつくる。
- 3 すべての児童を観察したり、アンケート調査をしたりしながら、児童の実態把握に努め、スクールカウンセラーや関係機関、保護者と連携し、誰1人取り残さないようにする。

不登校対策における重層的支援構造

参考：生徒指導提要R4.12



不登校対策チーム構成

管理職、主幹教諭、特別支援コーディネーター、生徒指導担当、養護教諭、担任の教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー

不登校児童生徒支援関係機関等

宍粟市教育委員会、学校生活支援教員、宍粟市教育支援センター、しろう学校サポートチーム、こども家庭センター、家庭児童相談所、学校運営協議会、主任児童員、民生委員・児童委員

4つの層での取組 等

発達支持

- ・教師と児童の人間関係を構築し、見通しを立てた授業の中で安心して学習ができるようにする。
- ・教師が子どもの側に立ち、楽しい学校・分かりやすい授業づくりに努める。

未然防止教育

- ・人権教育、特別支援教育の充実を図り、児童が相談しやすい関係・環境をつくる。
- ・児童への声かけや支援、アンケート調査や「千種っ子を語る会」等を行い、困り感を把握し、保護者と連携をとりながら不登校対策委員会で手立てを考える。

早期発見対応

- ・気になる児童の記録やアセスメントシートを作成し、不登校対策委員会で対応を協議し、全教職員に共通理解を図る。

困難課題対応

- ・不登校児童と保護者を、SCやSSWとつなぎ、スモールステップな計画を立て、安心して登校できるようにする。
- ・サポートルームの環境整備に努め、予兆がある児童が安心して過ごせる環境にする。